


1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」










項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復している。観光は、回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	緩やかに回復している	
観光	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	
設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	現状判断は、「上昇」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売額は、物価上昇の影響はあるものの、外出機会の増加により中元需要や観光需要が好調なことなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗などが引き続き好調なことから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数は、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年を下回っている。家電販売額は、足下では前年を上回っている。このように個人消費は、緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- インバウンド需要や盆、中元需要が底堅く、台風6号のマイナスの影響はあったものの前年を上回った。衣料品もインバウンド需要があり底堅い。(百貨店・スーパー)
- 外出需要の回復、観光需要増加、物価上昇による単価上昇もあり売上は好調。来店客数、客単価も前年を上回っている。食料品はプライベートブランドを中心に引き続き堅調。盆や中元需要も単価の高いオードブルや贈答品の売れ行きが良かった。(百貨店・スーパー)
- 来店客数、客単価は前年比増加、買い上げ点数も減少は見られない。観光地周辺店舗は好調、住宅地周辺店舗は順調。台風6号の影響はあったものの、航空機輸送で対応可能なコンビニは品不足の解消が早く、冷凍食品などの売れ行きは良かった。(コンビニエンスストア)
- 5類移行によりマスクの売れ行きは落ちているが、総合感冒薬、解熱剤は引き続き売れている。化粧品、UVケア商品などの季節性商品も好調である。(ドラッグストア)
- 半導体不足の影響は緩和し、自家用、レンタカーともに新車販売は増加している。(自動車販売店)
- 新車販売が順調で中古車市場の需給が緩み、相場が下がってきている。県民にとって車は生活必需品であり、買い控えの動きはみられない。8月は台風の影響や、盆休みでオークションが開催されず稼働日が少なかったため前年を下回った。(中古自動車販売店)
- サービス消費へのマインドも落ち着きを見せている印象がある。高額ドラム式洗濯機など生活を良くする、良くなるという便利な家電は高くても買う動きがある。(家電量販店)
- 台風の影響で高価格の発電機の需要増加のほか、園芸、DIY関連の商材に買い替えの動きがあった。(ホームセンター)

■ 観光 「回復しつつある」

入域観光客数について、台風の影響がみられたものの、国内客、外国客は、夏休みシーズンの旅行需要の高まりや各種イベントなどにより増加している。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、回復しつつある。

- 行動制限もない中、7-9月は夏のハイシーズンで観光需要が高いことから好調だったものの、台風の影響は大きな痛手となった。(他運輸)
- 今期は、FIBAバスケットボールワールドカップ2023沖縄があったことから、8月の売上げは令和元年同月比で100%を超えた。(運輸)
- 花火大会のイベントの際は、那覇市内からシャトルバスが出た効果もあり満室となった。(宿泊)
- 低稼働でも売上げが取れるように単価をアップしている。今期は夏のハイシーズンということもあり、客室料金を通常料金の2倍まで上げた。(宿泊)
- 人手不足による受注制限が要因で、稼働率が低くなった。(レンタカー)
- 夏場は個人客の需要が高く、特に、夏休みの時期で家族連れが多かった。(娯楽)
- 航空便の運行が次々に再開され、インバウンドも徐々に戻り始めていることから、全体的な利用者数は前期よりさらに良くなっている。(娯楽)
- 先行きについて、一般団体客や修学旅行の予約が既に入っていることや、韓国からのプロ野球キャンプの効果等で好調になると考える。(宿泊)
- 下期は団体客の需要が高く、オーバーツーリズムになる。修学旅行のバスの調整が難しい中、クルーズ船で団体客も入ってくると厳しい。一般団体客のバスが調整できず、需要を全て受け入れられないこともある。(旅行)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っている。このように雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 8月の有効求人倍率（季節調整値）は1.19倍。製造業の一部企業で在職者の再雇用など継続雇用に伴う求人提出の見直しなどが影響し、足下では減少しているものの、雇用情勢は観光関連産業を中心に改善傾向が続いている。（公的機関）
- 仕事をしながら求職登録をし、より良い条件の転職を待つ動きがある。（公的機関）
- シニア層に対する求人も徐々に増えており、企業側の意識の変化が見られる。シニア層で応募が多いのは、清掃やメンテナンス等の軽作業。企業側もシニア層を求める傾向にある。（求人誌出版）
- 人手不足感があり、外国人労働者の受け入れで対応している。受け入れは継続していきたい。（宿泊）
- 現場監督といった技術職の人手不足感がある。自社HPやハローワークに募集をかけているが、応募が全くない状況。新卒採用にシフトし、社内で人材を育てる方針とした。（建設）
- パート、バイト社員の採用が難しくなっている。特に、宮古、八重山の人手不足は顕著で、正社員を転勤させ対応せざるを得ない状況にある。（百貨店・スーパー）
- 予約・チケット販売の部門で退職者が出たが、予約をシステム化できたため、夏のハイシーズンに人を補充せずに乗り越えることができた。（娯楽）
- 人手不足、特に整備士不足は深刻。整備士の奪い合いが起きている。採用競争が激しく、採用は容易ではない。（自動車販売店）

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では、54.7%の増加見込みとなっている。
- 非製造業では、サービス、卸売・小売などで減少するものの、金融・保険、電気・ガス・水道などで増加することから、全体では16.8%の増加見込みとなっている。

- 今年度は営業用倉庫や機械設備の改修などを予定しており、増加見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では、49.9%の増益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設などで減益となるものの、運輸・郵便で増益となることなどから、全体では10.2%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は「上昇」超幅が拡大」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では、「上昇」超幅が拡大している。先行きは5年10~12月期、6年1~3月期は「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家で前年を下回っているものの、貸家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（5年度9月累計）は、前年を上回っている。

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

- 生産活動は、食料品に堅調な動きがみられるものの、窯業・土石が低下していることなどから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。